

平成 21 年 3 月 26 日

「PC 構造物の復元設計手法の確立」委員会

第二回会議議事録

日時：2009 年 3 月 26 日（木）16:00—

場所：PC 技術協会 会議室

出席者：魚本，手塚，内田，出雲，牧，勝木，加藤，稲原，堀内，中井，田中，大木，土田，中崎，土橋，坂本，橋本，佐藤（順不同，敬称略）

配付資料：

2-0：第二回会議議事次第

2-1：第一回会議議事録（案）

2-2：WG1（スパン 50m 以下）資料

2-3：WG2 進捗報告

2-4：検査 WG の進捗状況報告

2-5：委員会名簿

2-6：コンクリート構造診断技術講習会

2-7：PC 斜張橋・エクストラード橋設計施工規準改訂に関するセミナー

議題：

1. 委員長挨拶（魚本委員長）

魚本委員長から挨拶がなされ，来年度の PC シンポジウム等の情報が提供された。

2. 委員交代の紹介

3 名の委員の交代が紹介された。（株）富士ピー・エス左東氏，（株）ピーエス三菱堀内氏，（株）清水建設土田氏。

3. 議事録の承認

加藤調整幹事より，第一回議事録案が紹介され，出席予定者→出席者と修正し，議事録として承認された。

4. WG の進捗報告

4.1WG1 の報告

中井委員から，資料 2-2 を用いて WG1 の進捗状況が報告された。T 桁とスラブ桁橋を対象とし検討の進捗状況が報告された。主な討議は以下の通りである。

- ・過去の設計に関する資料はなるべく多く報告書に取り込む。
- ・T桁のフローは、設計計算書の有無の確認から始まっているが、構造診断士のテキストでは、橋歴板の確認、現地、設計計算書となっている。一般的には、資料 2-2 のフローとなるのか。

→目的に応じて異なるが、実際は管理者（行政）に図面は残っていないため、施工会社を確認するが、資料 2-2 のフローが一般的である。

- ・Case6 は何の情報も得られない状況であるが、設計条件の仮定は可能なのか。

→case 毎に非破壊検査の位置付けを見直していく必要がある。

- ・各社の主な設計手法の変遷もまとめて欲しい。
- ・〇〇年以前は、設計規準が確立されておらず、復元設計は難しいということを明示する。

#### 4.2 WG2 の報告

出雲主査から概略の報告の後、内田副主査から資料 2-3 を用いて WG2 の進捗状況が報告された。主な討議は以下の通りである。

- ・設計者の自由度に関して、報告書に記述する。
- ・試設計を資料として、過去の PC 橋梁の設計技術者にヒアリングする必要がある。
- ・試設計を実施した 6 名の考え方の違いなども詳細に整理する必要がある。
- ・復元設計に求められる精度に関して、今後も議論していく必要がある。

#### 4.3 WG3 の報告

勝木主査から、資料 2-4 を用いて WG3 の進捗状況が報告された。主な討議は以下の通りである。

- ・例えば、WG2 で検討している橋梁の鉄筋配置をどの程度の精度で計測できるのか。

→現状の記述をベースとして、適用範囲は明確にするが、新たな手法の提案は期間内には困難である。

- ・計測手法だけではなく、構造物へのアクセス方法やコストなども考慮して整理する。

#### 5. その他

今後のスケジュールは、以下の通りである。

- 7～9月 : 第三回全体委員会 WG の進捗報告
- 12月頃 : 第四回全体委員会 報告書ドラフトの提出
- 3月頃 : 第五回全体委員会

魚本委員長より、資料 2-6, 2-7 を用いて、構造診断士とセミナーが紹介された。

以上